

中学2年生

都丸希和

(1) 目的

メインテーマに「生命と環境」を掲げ、動植物に触れたり、自然保護の取り組みについて学んだりする中で、自分たちを取り巻く自然環境や社会環境に興味関心を広げる。そして、気象や地形などの自然事象、地球温暖化や生態系の破壊などの環境問題、また科学技術の進歩がもたらす成果や課題といった、グローバルな事柄を見据えた個人テーマを定める。個人テーマの探究を通し、課題を解決する方法や成果をまとめる方法を身に付けるとともに、持続可能な社会を作るために、自分たちに何ができるか、どのようなことが必要かを考えていく中で、サイエンスリテラシーを育てる。また、同じテーマの中について協同で探究していくことにより、多様な見方を育てる。

(2) 実施方法

5月上旬に行われる林間学校を利用して、根の上高原や乗鞍、上高地の自然に触れるとともに、ネイチャーガイドの方と散策をしながら、上高地における動植物や気候、自然保護の取り組みについて学ぶ。また、グループで事前に質問を考えて、ガイドの方にインタビューを行うことで、生命や環境に関する問題に目を向けるとともに、実際に自分の目で見たり、現地の方に話を聞いたりする大切さを学ぶ。さらに、林間学校の体験をグループで分担してまとめる中で、仲間と協力して課題に取り組むための協調性を身に付ける。

6月以降は11月に行うフィールドワークに向け、個人テーマを定め、調べ学習を行う。また、調べ学習の発表を通し、お互いのテーマや発表内容の類似点や相違点をまとめ、生命・環境に対する多様な見方や考え方を学ぶ。

フィールドワークの実施を通し、アポイントの取り方や依頼状・お礼状の書き方、質問事項の考え方など、課題を探究するために必要な技能を身に付けるとともに、林間学校でのインタビュー同様、実際に体験したり、研究者や専門家の方から話を伺ったりする大切さを学ぶ。また、フィールドワークの内容を研究集録やポスターの形でまとめ、成果の伝え方を身に付ける。

(3) 内容

月	授業内容（予定）
4	上高地事前学習
	依頼状作成、ネイチャーガイドへの質問づくり
5	高山市内班行動計画
	根の上高原・乗鞍見所マップづくり
	林間学校（5月15日～17日）
	上高地ポスターづくり
6	上高地ポスターセッション
7	「生命と環境」個人テーマ調べ学習
9	夏休み課題発表会
10	フィールドワークアポ取り、依頼状作成、事前学習
	フィールドワーク事前学習
11	フィールドワーク当日
	お礼状作成、研究集録執筆
12	研究集録完成、ポスター作成
1	ポスター作成、発表原稿作成
2	FWポスター発表会
3	FWポスター代表者発表会
	1年間のまとめ

(4) 検証評価

中学1年生では今年度の学習を進めるための基礎的な力を学んできた。今年度はそれらの力をより確かなものにしていくとともに、自分で生かそうとする自主性を育んだ。また、前年度は自身の興味ある職業が個人テーマであったのに対し、今年度はメインテーマ「生命と環境」に基づき、自ら問題意識をもって学習を進めていくため、個人テーマの設定やフィールドワーク先の選定を重要視した。同時に、調べ学習やフィールドワークなど個人で行う活動が中心ではあるが、個人では完結しないような普遍的でグローバルな課題に迫ることが1つの目標となるため、昨年度以上に周りの仲間と意見を交換し合い、協力して課題に取り組む大切さに気付かせるとともに、様々な視点を共有し合いながら学習を進めることができた。

特に、林間学校への取り組みはすべてグループで準

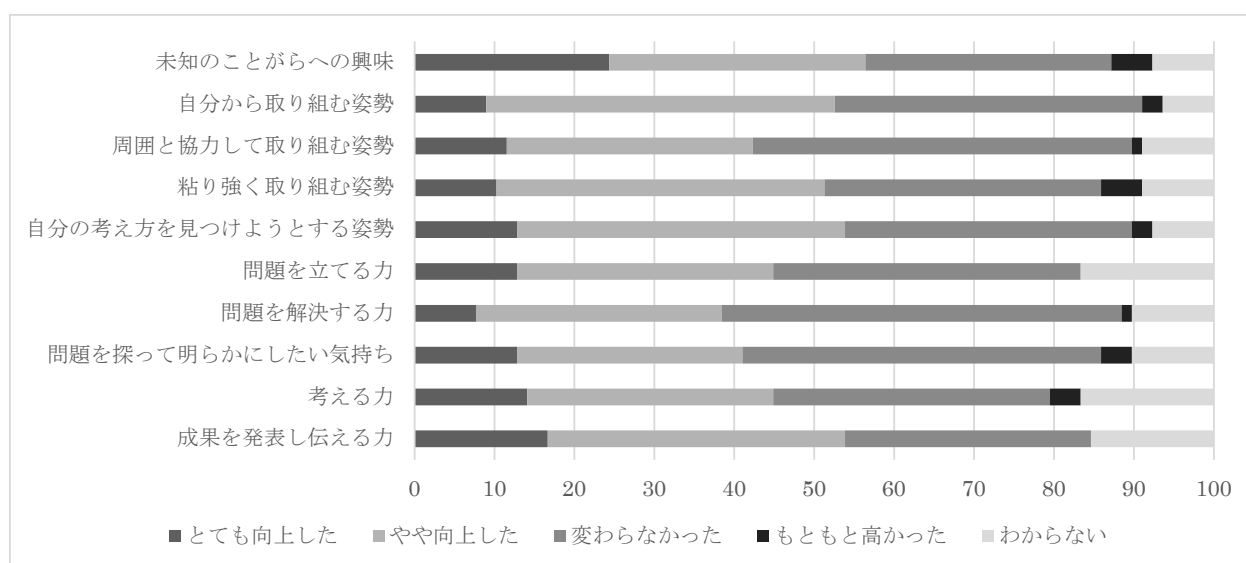
備・発表を行った。生徒は協同で研究を進める難しさを学ぶとともに、他者の意見を尊重する姿勢を身につけた。その他、林間学校では様々な場面で積極的にグループ活動を取り入れ、協調性を高めていった。これらのグループ活動は、来年度以降の総合人間科への接続においても重要である。特に、中学3年生は「国際理解と平和」をテーマに、グループで研究を進めていくため、その土台となったと思われる。

各生徒に対する評価としては、①テーマ設定および調べ学習の内容、②フィールドワークの取り組み、③研究集録執筆・ポスター作成および発表について評価を行った。①テーマ設定および調べ学習の内容については、「生命と環境」というテーマを踏まえて、自ら問題意識

をもち、テーマを設定し、また、そのテーマに沿った調べ学習が行うことができたかを判断した。②フィールドワークの取り組みについては、テーマに沿ったフィールドワーク先を探し、訪問先について調べ、アポイントや依頼状・お礼状、質問の作成やインタビューなど、一連の取り組みを自らの力で行うことができたか判断した。③研究集録執筆・ポスター作成および発表については、調べ学習やフィールドワークを通して学んだ内容を適切にまとめ、発表できたかを判断した。

一方、多種多様な内容に対し、授業時間内では研究が終わらない生徒も見られた。これは生徒自身が積極的に学びに取り組んでいる証だが、次期指導課程にむけて、授業内容の精選が必要だと思われる。

アンケート結果



選択肢①「とても向上した」および選択肢②「やや向上した」の合計人数が最も多かったのは、「未知のことがらへの興味（好奇心）」であり、次いで「成果を発表し伝える力」、「自分の考え方を見つけようとする姿勢」であった。これは、自らの興味関心のあるテーマを選び、自主的に研究を行った結果であると言える。一方で、「問題を立てる力」、「問題を解決する力」は合計人数が少なかった。この力は、高1のPBL、高2のSTEAMで目標とする力であるので、今後につながるよう授業を工夫していく必要がある。

(文責 都丸希和)